

資料編

釧路湿原自然再生協議会環境教育ワーキンググループ構成員

< 個人 >

大森 享 (北海道教育大学釧路校 准教授)
金子 正美 (酪農学園大学 環境システム学部 教授)
神戸 忠勝
新庄 久志 (釧路国際ウェットランドセンター主幹)
高橋 忠一 (北海道教育大学釧路校 准教授)
鶴間 秀典
永瀬 知志
松本 文雄

< 団体 >

阿寒国際ツルセンター
釧路国際ウェットランドセンター
釧路自然保護協会
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会
釧路湿原国立公園連絡協議会
釧路市民活動センターわっと
釧路シャケの会
NPO 法人 環境把握推進ネットワーク - PEG -
NPO 法人 釧路湿原やちの会

< 教育行政関係機関 >

北海道教育庁釧路教育局、釧路市教育委員会、釧路町教育委員会
標茶町教育委員会、鶴居村教育委員会

< 関係行政機関 >

環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部
林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
北海道釧路支庁
釧路市

< ワーキンググループ事務局 >

環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
財団法人北海道環境財団

湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査

調査主催 釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会 環境教育ワーキンググループ

事務局 環境省釧路自然環境事務所

調査請負機関 財団法人北海道環境財団

このたびはお忙しいところ調査にご協力いただき、お礼申し上げます。以下の各欄に必要な事項をご記入のうえ、同封の返信用封筒（切手不要）またはFAX(011-218-7812)により、9月25日（火）までに下記宛てにご返送ください。

調査目的：釧路湿原自然再生協議会では、釧路湿原の保全・再生にあたり、湿原を題材とした環境教育を推進していきたいと考えています。この調査は、これにあたって学校における環境教育の実施状況や意向等に関する情報を収集し、今後の推進方策を検討するための資料とすることを目的として実施するものです。

対象：釧路湿原集水域の5市町村（釧路町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、釧路市）の小学校、中学校、高等学校、大学を対象とします。

調査結果の取扱い：調査結果は集計し、学校名が特定されない形で釧路湿原自然再生協議会に報告し、公表することを予定しています。ご回答いただきました学校には、報告書を送付させていただきます。

【アンケート回答にあたってのお願い】

- (1) 選択項目では、該当する番号の回答欄に をつけてください。
- (2) 選択項目のうち、「その他」など記載欄()もしくは、記入欄が用意されている項目を選んだ場合には、必要に応じて内容をご記入ください。
- (3) 自由記入欄では、設問への回答をご記入ください。記入スペースが不足する場合は、別途用紙をご用意いただき、アンケート表とともにお送りください。
- (3) 参考資料等をご提供いただける場合は、料金着払いにて下記宛てにお送りください。
- (4) 電子メールでのご回答を希望される場合は、yamamoto@heco-spc.or.jpまで、フォームをご請求ください。

（資料送付・お問い合わせ）

財団法人北海道環境財団（担当：山本、久保田）

〒060-0004 札幌市中央区北4条西4丁目伊藤・加藤ビル4階

電話 011-218-7811（月～金 10:00～18:30）、FAX 011-218-7812

1. 貴校について教えてください

1.学校名	ふりがな
2.全校生徒数	
3.教職員数	

2 . 環境教育の実施状況について

2 - 1 貴校では環境教育を実施していますか。1つ選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	実施している	問2 - 2へ
	実施の意向があるが、現在のところ実施していない	問2 - 6へ
	実施の意向はない	

2 - 2 どのようなテーマで実施されていますか。当てはまるものを全て選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	湿原を題材とする環境教育を実施	問2 - 3へ
	湿原以外を題材とする環境教育を実施	

2 - 3 どのような時間に実施していますか。当てはまるものを全て選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	総合的な学習の時間に実施している	問2 - 4へ
	教科の中で実施している	
	課外活動で実施している	
	そのほか()	

2 - 4 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。		
回 答(様式自由)	これらが記載されている文書等の同封に代えていただいてもかまいません。	
		問2 - 5へ

2 - 5 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。	
回 答(様式自由)	
	問3 - 1へ

2 - 6 環境教育を実施されていない理由を差し支えない範囲でご記入ください。	
回 答(様式自由)	
	問2 - 7へ

2 - 7 環境教育を新しく導入していく場合、どのような支援や条件が必要になるでしょうか。考えられるものを全て選んで をつけてください。 、 を選んだ場合には、可能な範囲で具体的にご記入ください。	
回 答	選択肢
	指導資料等授業のプログラムやマニュアルの整備
	外部からの講師の派遣
	予算(予算規模、利用目的を可能な範囲でご記入ください)
	そのほか(具体的にご記入ください)
	問3 - 1へ

3 . 湿原を題材とした教育の実施状況について

以下の設問では、湿原でのマラソンや遠足等、環境教育以外の活動も含めて、また、実施単位としては学年、学級、グループ単位での実施も含めてご回答ください。

3 - 1 湿原を題材またはフィールドとした教育活動を実施していますか。1つ選んで をつけてください。	
回 答	選択肢
	実施している 該当する実施単位を全て選んで をつけてください。
	実施単位 学校 ・ 学年 ・ 学級 ・ グループ
	実施の意向があるが、現在のところ実施していない
	実施の意向はない
	問3 - 2へ
	問3 - 5へ

3 - 2 どのような時間に実施していますか。当てはまるものを全て選んで をつけてください。

回 答	選 択 肢	
	総合的な学習の時間に実施している	問3 - 3へ
	教科の中で実施している	
	課外活動で実施している	
	そのほか()	

3 - 3 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。

回 答(様式自由) これらが記載されている文書等の同封に代えていただいてもかまいません。

	問3 - 4へ
--	---------

3 - 4 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。

回 答(様式自由)

	問4 - 1へ
--	---------

3 - 5 湿原を題材とした教育活動を実施されていない理由を、差し支えない範囲でご記入ください。	
回 答(様式自由)	
	問3 - 6へ

3 - 6 湿原を題材とした教育を新たに導入しようとする場合、どのような支援や条件が必要になるでしょうか。考えられるものを全て選んで をつけてください。 、 を選んだ場合には、可能な範囲で具体的にご記入ください。	
回 答	選択肢
	指導資料等授業のプログラムやマニュアルの整備
	外部からの講師の派遣
	予算(予算規模、利用目的を可能な範囲でご記入ください)
	そのほか(具体的にご記入ください)
	問4 - 1へ

4 . 湿原を題材とした環境教育への意向について

4 - 1 釧路湿原自然再生協議会では、湿原を活用した環境教育の推進方策を検討していくために、同協議会メンバーの有志から成る環境教育ワーキンググループ(座長:高橋忠一北海道教育大学釧路校准教授)を設置しています。このワーキンググループの活動に関心がありますか。以下から1つ選んで をつけてください。(釧路湿原自然再生協議会については、別添の同封資料をご参照ください。)	
回 答	選択肢
	関心がある 仮に、メンバーとして参加をご検討いただく場合、参加にあたっての条件があれば以下にご記入ください。
	特に関心はない
	問4 - 2へ

4 - 2 湿原を題材とする環境教育のプログラムや教材に関心はありますか、以下から1つ選んで をつけてください。	
回 答	選 択 肢
	関心がある(プログラムや教材づくりへの協力も考えたい。) 仮に、ご協力いただける場合、条件があれば以下にご記入ください。
	特に関心はない
問4 - 3へ	
4 - 3 湿原を題材とする環境教育のプログラムや教材が作成された場合、授業での活用等に関心はありますか、以下から1つ選んで をつけてください。	
回 答	選 択 肢
	関心がある(モデル授業の実施等も考えたい) 実施に当たっての条件等があれば以下にご記入ください。
	特に関心はない
問4 - 4へ	
4 - 4 湿原を題材とした環境教育の導入や推進について、ご意見があればお聞かせください。	
回 答(様式自由)	
問5へ	

5 . 本アンケートに関する照会先

回答者情報については、調査内容について別途照会させていただく場合に使用させていただきます。
個人情報については、公開することはありません。

回答者氏名		回 答 者 役 職 等	
電 話 番 号		電 子 メール	

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査結果（自由記入の設問）

設問 2 - 4、2 - 5、2 - 6、3 - 3、3 - 4、3 - 5 について、記入内容の原文を以下に記載します。

学校名の記述を含むものや特定の学校を示す記載については、内容の一部に編集を行っています。

2 . 環境教育の実施状況について

2 - 4 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。

「別添資料参照」等と記載のある学校については以下では記載を割愛しています。

小学校

4年生の総合的な学習の時間で実施。湿原に住む動植物について調べ学習をする。その活動の中で、おたまじゃくしを育て、かえるになるころ放している。また、博物館から講師を年3回来ていただき、お話ししていただいている。

ごみの分別、リサイクル学習 4年

1 4年 総合的な学習の時間（20時間）「水の旅」

水をテーマに環境に関わる部分で、自分の興味・関心のある部分（水の汚染、水質の変化、水の循環など）を調べていく学習。

2 空き缶を全校児童で集めて、その益金でAEDを購入しようと活動をしている。

・総合的な学習「みんなのピオトープ」で、学校のピオトープを活用し、湿原の花等の観察等を行っている。鳥の巣箱かけも実施。

・羊の飼育活動は児童と教師全員で実施

・リサイクル活動、学校版ISOにも取り組んでいる。

・学校のピオトープは、住宅地にあって、唯一の釧路の自然が残る場所として地域の方も散歩におとずれている。自然（森、川）の中に入れ、楽しくゲームをしながら、いろいろなことに気づいていく、大切にしようとする態度を育てる。

春採湖学習

1,2年生 生活科

3,4年生 総合的な学習の時間

5,6年生 総合的な学習の時間、水辺教室

3~6年 23時間 自然体験活動を中心とした探求活動

自然探索、野鳥観察、資料館見学、化石掘り 等

本校は地域が自然豊かなため、身近な自然と触れ合うことを中心として活動している。この他に栽培活動も行っている。

第3~6学年 クリーン作戦 年間12時間

全学年 10時間程度。学年毎に「校外学習」ののりに環境学習を取り入れている。

・キナシベツ湿原の自然（2年）

・音別町再発見・・・自然環境のすばらしさに着目（5、6年）

・阿寒湖のマリモについての学習

・阿寒湖の自然を教材にしたネイチャーウォッチング

第5学年「環境をかんがえよう」25時間

学習内容

- ・「トトロのふるさと財団」を例に、身近な地域の環境を守るための取り組みについて調べる。
- ・地球の環境を守るための国際的な協力について調べる。
- ・環境を守るために、自分たちにできることを考え、話し合う。
- ・タンチョウの給餌 ・地域のごみ拾い ・畑作体験

総合学習の中で、4年生が釧路湿原をテーマにして、季節の移り変わりによって、様々に変容する植物や動物などの観察、ネイチャーセンター職員の説明などで、湿原の誕生から特徴まで調べ、年間3回公共バスを使い実地調査活動を行い、取り組み後も、自主的に家で家庭において湿原にふれあう機会がふえてきている。

新釧路川をテーマ（総合的な学習の時間）

3年 50時間「 のステキをみつけよう」のテーマの中で、

- ・地域の探検を通して、 のステキを発見する。
- ・地域にもっとステキが広がるようクリーン活動やリサイクル活動を行う。

6年 30時間「未来をみつめて」のテーマの中で、

- ・地球の環境問題について調べる。
- ・自分たちにできる環境保護について考え、活動する。生活排水実験、ごみ分別作業など
- ・ 環境守り隊：児童会活動（全校での取り組み）
節電・節水の取組、ごみ分別、清掃の徹底：事務局、環境委が呼びかけ。日常的に取り組む。

定期的に結果を公表

- ・3学年 総合的な学習の時間「わくわく たんけんたい」

学校周辺の樹木について調べる 営林署の方による「森林教室」(4回実施)

活動を通して身近な樹木にふれるとともに、樹木の大切さやその環境を守ろうとする気持ちを持つ

- ・社会科・理科等での学習内容

全学年、各学年10時間位 ・海岸清掃 ・校舎外清掃 ・通学路清掃 ・花壇活動

- ・全学年でISOに取り組んでいる。
- ・4,5,6年の総合的な時間を使って、ゴミをはじめとして環境教育を行っている。
- ・3年生以上の社会科等で釧路市の取り組みを通して、環境教育を行っている。

(例1) 湿原を題材とした活動ではありませんが、地域清掃活動の一環として実施している「ピカリン大作戦」という活動があります。

- ・対象学年…全学年(25名) ・時間数…年2回(春・秋) ・時数扱い…勤労生産・奉仕的行事
- ・地域、PTAの協力…23名

《成果等》

- ・本校で20年以上続いている伝統的な活動で、H18年度はその長年の功績が認められ、全国漁港漁場協会愛護団体表彰を受賞しました。同じくH18年度「我が村は美しく北海道」運動第3回コンクールの景観部門にて特別賞も受賞しました。
- ・H19年度は、児童数が減少してきている中、子供会組織を中心に4つの地域に分かれてピカリン大作戦を実施。総重量250kgのゴミを回収。自分たちの住む村をきれいにするという意識が地域の環境保全にもつながり、子ども達の自然に関する興味・関心も高まってきています。

全学年対象による「森林教室」(釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター)指導官による

発達段階に応じた内容で毎年実施している。森林の役割、種類、見分け方等

- ・小1・2年生 生活課 - 野外観察、自然探索、野菜や花の栽培

- ・小4年 理科 - 生き物の一年
社会 - 水はどこからくるの、ゴミの処理について
図工 - 久著呂の自然を描く
- ・小6年 理科 - 生き物のくらしと環境
理科 - 地球と生き物のくらし
図工 - 久著呂の自然を描く
- 総合 - 地域の自然発見
花、野菜の栽培

3年生 45時間

鶴居ビジターセンターにてレンジャーの案内で ザリガニ釣り体験 湿原の花 貝の化石探し 虫や鳥 などについて散策しながら教えていただいた。その後、各自のテーマに基づいてビジターセンターのレンジャーに質問をしながら課題をまとめた。子ども達は「やちまなこ」に興味を示し、湿原についてさらに追求活動を行った。また、まとめたものを保護者や地域住民に向けて発表会を行った。

本校の環境教育は主に総合的な学習の時間において実施している。4年1サイクル(鶴居自慢 鶴居の自然 鶴居の未来 鶴居の人)で行うため、年度によっては湿原と深い関わりがある。

3,4年 25時間「進め！湿原調査隊」

- ・春、秋の2回、湿原に行き、指導員の説明を聞きながら、湿原内を探索する。
- ・湿原見学を通して、釧路湿原についての思いを個々にまとめ発表する。

通常の授業とはちがう環境での学習を通して、見て、聞いて、触れる等、有意義な学習をすることができる。

植樹活動・・・5,6年生(3時間) 毎年、校庭に桜の苗木を植える。

苗木づくり活動・・・5,6年生(3時間) 鹿の害で減少傾向にあるノリウツギ、ナナカマド、ミズナラなどを種から校庭で育て、苗木になったら園地に植樹する予定。

石鹸づくり・・・6年生(2時間) 環境に優しい石鹸ということで、総合の時間に廃油を原料にした石鹸を作っている。

校舎外清掃・・・全校児童(毎月1回20分間 年間10回)校庭や通学路のゴミ拾いを中心とした清掃活動を行っている。

クリーン作戦・・・5,6年生(5時間) 総合の時間に「ふるさと川湯」を美しい町にしようということで、地域のホテルや公共施設にポスターを貼らせていただいたり、手づくりゴミ箱を置かせていただいたり、観光客や地域の人に自分たちで企画したゴミ拾い散策への参加を呼びかけたりしている。

円形花壇づくり・・・全校児童(年間を通して随時) 観光バスが校門前を通ると真っ先に見える校庭の大きな円形花壇を6月に花でいっぱいにし、10月まで全校児童で世話活動を続け、環境美化に力を入れている。

摩周・屈斜路クリーンタッチ・・・全校児童(年1回3時間) 幼稚園児から高校生まで全町あげて取り組んでいるゴミ拾いを中心とした清掃活動。高校生がリーダーとなり、地域ごとに中学生、小学生、幼稚園児、保育園児と縦割り班をつくり活動している。

摩周湖クリーンウォーク・・・全学年希望者(年1回3時間) 町役場が中心になり、地域住民が参加する、ゴミ拾い活動。学校はPTAが窓口となり、子ども、保護者、教職員が参加。

- ・対象学年～全学年 ・時間数～6時間(事前1、事中4、事後1)
- ・内容～町内の幼・保・小・中・高の子どもが参加。

小・中・高については、地区ごとにグループを編成し、高校生リーダーを中心に協力して、清掃活動を展開する。

昨年度、第1回目を実施し、活動後の反省では、小・中・高の児童・生徒と一緒に活動する楽しさを実感した感想が多く出された。

1.『地域をきれいにしよう!』(総合的な学習の時間、全校児童)

花づくりと清掃活動に取り組んでいる。

<花づくり>では、子どもたちが種から大切に育ててきた花を50個のプランターに移植し、地域の道路や公園、日頃お世話になっている郵便局や駅などに設置している。

<清掃活動>では、校舎周辺や通学路、駅などの清掃活動を行っている。

2.クリーン・タッチ(総合的な学習の時間、町内全ての幼小中高生全員)

町内全ての幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校が連携してごみ拾い活動を行っている。実施後の感想では、地域の子も達と一緒に環境について考えるよい機会になった。スクールバスの中や町で会った時に挨拶を交わすようになったなど、一斉に環境を守る活動を通して、同じ町に住む者同士の実感を深め、地域の環境保全に対する意識の高揚や郷土を愛する心を一層培うことにつながっている。

3.学校版環境ISO(児童会活動、全校児童)

児童会を中心に構内における省エネ、省資源、リサイクル等に取り組み、毎月点検・記録化・見直しを図り、子ども達の環境保全に対する意識の高揚に努めている。

4.郷土学習(総合的な学習の時間、5・6年生)

川湯自然研究会で行っている自然調査に本校の5・6年生が参加し、河川の湧水部から中流部にかけての植生や河川等の様子などを観察したり、水質比較を行ったりした。この活動を通して、きれいな水が動植物の命を守っていることを実感し、この環境を大切に守っていこうという気持ちをもつことができた。

5.カヌー体験(行事、全校児童)

地域の方々の協力を得て、屈斜路湖畔より釧路川流出付近をカヌーで下り、水辺周辺の植物や生き物を観察したり、川遊び体験を行ったりしている。この活動を通して、自分たちの住んでいる地域の自然の豊かさを実感し、大切にしようとする気持ちにつながっている。

・ふるさと体験学習

カヌー体験、藻琴山登山

・クリーン・タッチ

町内の園児、児童、生徒がお互いに協力し合い環境保全活動(ごみ拾い)に取り組む(別添)

・地域ごみ拾い

地域住民と一緒に地域環境保全活動(ごみ拾い)に取り組む

対象学年：高学年を対象(総合的な学習で) 時間：20時間

内容：

川湯エコミュージアムの活用

摩周湖、屈斜路湖の成り立ちや環境(特に摩周湖の透明度等の調査等についても)の変化等についての説明

摩周湖周辺の動植物についての個人調査(調べ学習)

(植物、魚、鳥、昆虫などについて)(総合)

成果：図鑑づくりなどでまとめた。

感想：地域に存在する人材をもっと活用していきたい。

・全学年にて

・様々な形で環境教育にふれる結果になっているので、時間数は確定しきれない状況である。

中学校

1 年生が「地域を知る」というテーマの中で、自ら課題を設定し、調査活動等を実施している。その課題の中で、釧路湿原についての調査活動を設定している生徒もいる。また、隣接している春採湖についても同様である。

全学年 内容：リングブルの回収、緑の羽根募金、緑の羽根募金還元金による植樹

成果：環境に気をを使うようになった。

総合学習 1 年生のテーマが環境となっています。自然環境、ごみ問題などを扱っています。

1 年生 6 時間 地域の自然環境調べ

1 学年 森林学習（環境教育の方を講師に迎えて） 2 学年 釧路に生息する動物の壁画作成

3 学年 地域清掃ボランティア

1 年 40 時間 「阿寒町の自然」 地形、気候、動物、植物など

・「地域・湖岸清掃」全学年 3 時間

自分の住んでいる地域と阿寒湖岸の清掃を通し、環境美化の意識の高揚を図るとともに、地域の一員としての自覚を高めている。

・「植樹祭」1 学年 2 時間

植樹を通し、自然環境保全に努め、動植物愛護の心を育てる。また、自然に親しみ美しさやすばらしさを体感する。

・「マリモ観察会」3 学年 2 時間

湖底に生息する姿を直に観察することにより、ふるさと愛や畏敬の念を育てるとともに、特別天然記念物を貴重な財産とし、みんなで保護しようとする心を育てる。

2 学年、選択教科（MTP コース）

・MTP 事業を実施するにあたり、今年度開設した。

・アメリカ、フロリダ州の中学校との湿原を共通点とした交流の実施を予定している。

・1 学年 ・釧路湿原の概要、現地での課題別学習 ・講師を招いての講演

・身近な湿原についての関心が高まった

全学年（1 年生は総合的な学習の時間、他学年は教科の担当時間で）

第 3 学年 10 時間程度

地球環境問題（温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、砂漠化、熱帯雨林の減少、野生生物の絶滅）

成果 いろいろな環境問題を身近で緊急な問題として捉え、考えるようになった。

1 年生で実施「地域の環境を見つめよう」

・高山ゴミ処理場、釧路市資源リサイクルセンター等の見学 ・校下の河川清掃等を実施

1 学年 35 時間程度

選択課題で子ども達が標茶の自然等について調査研究している。それぞれのグループが取り組んでいる。

・併置校なので、小 1～中 3 の全学年を対象に実施している。

・本校は学校林があり、春夏秋の年 3 回各 3 時間、学校林で活動している。

・内容は、冬囲い（秋）撤去（春）巣箱清掃（秋）などの体験、観察などを全校や学級ごとに行っている。

・環境教育という面では、比較的時間のとれる夏に、釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターの協力を得て、森林の役割等について学習した。

・昨年から、ふれあいセンターの協力を得ているが、外部講師ということで、子ども達の視野が広がったと思う。

・植樹活動への参加

・「クリーン作戦」年に 2 回程度、全校生徒と教職員で地域のゴミ拾いを行っている。

・生徒会が中心となって、プルタブ回収等を行っている。

- ・総合的な学習の時間の調べ学習で環境問題をテーマに学習している生徒や、鶴居のことを調べる上で、湿原を題材としている生徒がいる。
- ・地域清掃の実施（全学年）
- ・タンチョウ生息調査への協力の事前指導の一環で実施（全学年）
- ・村の植樹祭への参加（3学年）
- ・各教科の中で適宜
- ・第1学年 総合的な学習の時間（70時間）
「弟子屈町の自然」摩周湖を中心に調べ学習
- ・第2学年 環境学習（2時間）
理科授業として環境科学研究センター所員による大気と摩周湖の学習を毎年実施
- ・全学年 教科指導（理科）の中で地域素材の活用を図り、生物分野の学習を行っている。
- ・そのほか 開発局治水課で行う水生生物調査を弟子屈町河川で実施。毎年希望者が参加。
生徒会の取り組みとしてISO活動を行っている。
- ・1年 総合的な学習の時間 ・屈斜路湖の水質調査 ・植物の分布、植生調べ
- ・釧路川源流部 ポートによる川くんだり

高等学校

1学年の総合学習で湿原探索を1日（6h）で行っている。

1学年に実施

目的 道東の豊かな自然への理解を深め、人間と自然の関わりを考えることで、今後自然と共存して生きる素地をつくる。

事前指導 地理Aの授業の中で4時間

地域巡検 午前 温根内ビジターセンターで木道の自然観察 午後 北斗遺跡、資料館の観察

事後指導 地理Aの授業の中で8時間。レポートの提出

2学年に実施

事前指導 社会の授業の中で4時間

地域巡検 阿寒湖の実施、ポッケ探勝路観察、グループ別学習

1) マリモの謎を探る 2) 阿寒湖の観光 3) 自然に親しむ 4) 白湯山を学ぶ

事後指導 社会の授業の中で8時間。レポートの提出

3年生 選択授業で3時間程度

(財)日本野鳥の会出版「タンチョウティーチャーズガイド」を用いて、「タンチョウの保護＝湿原を守ること」を学ぶ。

大学・高等専門学校等

環境問題現地研究（2学年）、サステナビリティ学（3学年）

地域のNPO法人「トラストサルン釧路」の春及び秋の植林活動にゼミ単位、有志（+ 掲示を見て直接参加する学生）で1997年度より毎年参加している。

また、『環境地理学演習』（ ）では卒論作成に向けて生態系保全・野生生物・都市環境班等を編成し、聞き取り調査・施設見学（ゴミ焼却施設やビジターセンターなど）を実施している。

また道外や海外から道東湿原群での調査・視察・会合参加のために来釧する学生や研究者、政府関係者との交流・意見交換も実施している。

2 - 5 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。

小学校

湿原までの交通費がなく、全児童（114名）が行けないでいる。

小学生が追求学習を行うのに適した学習材（本、インターネットなどの情報）が多く必要。

予算、施設整備の面で苦慮している。

バス等での移動が必要。経費がかかる。

少人数校なので、一人一人への支援がしやすいが、学年発達段階に応じた目標の設定、課題の選択に留意が必要
体験活動にかかる時間が限られる

時間と予算が足りない

現地での交通手段は公共バスを使うが、自費となるので負担がかかる。

環境保全に関するせっかくの取組ですが、毎回、村外からの不法投棄によるゴミが大量にあり、子ども達の手には負えないのが現状です。一部の心ない大人の規範意識の低下のために、子ども達の意識も停滞気味になっています。

時間数の確保が大変です

活動内容が天候に左右される。

学校からビジターセンターまでの移動手段が限られるので、回数も制限される。

役場のバスを利用させていただいているので、学校の都合で自由に釧路湿原に行くことができない。

・専門的な指導が可能な外部講師の依頼が難しい。

・どの活動をするにも、少ない予算で行っているため、年々活動が先細りの傾向にある。

・町内全校での連絡調整の難しさ ・回を重ねて実施する際の内容の工夫～マンネリ化の防止

地域の人材を積極的に活用していくこと

中学校

生徒人数が多いため、身近な場所でしかできない。

体験的学習活動の導入が大変である。

フィールドワークの段取りが難しい。

身近なところであれば、もっと調査ができる（バス等を使わなくても）

調査活動の時間、経費、指導者の確保

科学的根拠を実証する施設、設備の充実

移動はバスを使用するため、多くの取組が困難

移動手段の確保

環境教育と構えた形では行っていないが、単発にならないように、九年間の見通しを持って、継続的に取り組むことが課題である。

・予算がない ・植樹活動の前に、事前の活動として、外部講師を招いて意識付けを行っているが、適当な外部講師がなかなか見つからない

現地での体験活動を設定しづらい

高等学校

その成果を調べるのが難しい

自然について考えさせるきっかけとはなっているが、さらに深く考えさせ、行動させるプログラムはできていない。

悪天候の時には、成果を出せず終わってしまうことがある。

大学・高等専門学校等

学生が卒論作成のために道内や道外でエコツアー等に参加する場合の安全対策・指導（経済学部であり基本的にフィールド体験はほとんど初めてというケースが多い）

新たに環境教育を授業として導入するにあたっては、何らかの古い科目を諦めなければ時間割上過密になる。また、専門教員が不足しているので、外部講師に依存することになる。

講義だけでは生きた環境教育にならないので、校外施設への見学などが必須と考えるが、その交通費や、まとまった時間の確保が課題である。

また、単に見学しても問題意識が希薄になるので、事前もしくは見学中に専門家のお話を聞けることが重要と考えるが、そのすりあわせが課題。

2 - 6 環境教育を実施されていない理由を差し支えない範囲でご記入ください。

小学校

各教科や特別活動等、学校教育活動全体の中で環境に関する学習や活動は、どこの学校でもやっています。(本校も)ただ、総合的な学習の時間などで、とりたてて多くの時間を使っての学習は実施していないということです。

本校は、地域学習を中心にやっていますので。

教科や総合の中で多かれ少なかれ関連を持たせて指導しているが、それらの競合や重複を十分整理し全体計画を立案するまでには至っていないため、「実施していない」と回答しています。

福祉教育など他の課題に取り組んでいるため

教育課程全体の中で地域を題材とした学習や体験活動、リサイクル運動等に取り組んでおり、学級課題を解決する上で「いわゆる」環境教育をメインとしなくてもよいと考えているから。

各教科等の計画及び実施が充実し、その目標を達成する取組が十分になされているため、環境教育の目標も十分にクリアしていると考えます。

プログラムされている年間の指導計画に基づいて授業が進められており、現在のところ環境教育については計画の中に位置づけられておらず、また、その必要性を求める声はまだ高まってはいないため。環境教育という前提としてではないが、総合的な学習の時間の中では、テーマを自然環境に向けた内容で各学年で取り組まれているものもあるので、現在のところはそこまでである。

各学年ごとに教科の学習内容に合わせて指導しているのが現状である。今後それらを体系的に整理するとともに、他の領域との関連を図りながら環境教育の全体計画を作成し推進していく予定である。

日常の教育活動の中で環境に関する問題等について子ども達に考えさせたり指導したりすることが多いから。

中学校

教育活動全体の中では、環境教育を実施しているが、総合学習の時間などで重点をおき、ある程度時間をかけて取り組むことはしていません。地域学習などに重点をおいて学習しているため。

教育課程の編成にかかわって、本校の実態においてはまだ困難さがある。

教育課程全体の中で地域を題材とした学習や体験活動、リサイクル運動等に取り組んでおり、学級課題を解決する上で「いわゆる」環境教育をメインとしなくてもよいと考えているから。

・移動手段の弊害 ・大幅なカリキュラム編成の見直しが必要

現在、総合等で農業体験学習を中心に行っております。また過去に取り組んだ経過もある様ですが地域酪農の実情と反する部分が有り少々もめた様です。他の体験学習との兼ね合い。

必要性を感じるが、時間的に無理がある。

高等学校

教育課程及びカリキュラムに盛り込むことが難しいため(普通科高校ということ)

教員の研修不足

・全教職員の共通理解がまず必要 ・予算 ・湿原に関しては交通手段等の問題

大学・高等専門学校等

カリキュラム上、時間の余裕がない

3 . 湿原を題材とした教育の実施状況について

以下の設問では、湿原でのマラソンや遠足等、環境教育以外の活動も含めて、また、実施単位としては学年、学級、グループ単位での実施も含めてご回答ください。

3 - 3 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。

「2 - 4 同様」、「別添資料参照」等と記載のある学校については以下では記載を割愛しています。

小学校

4年 社会：校外学習 理科：湿原探索

第5学年 釧路のまちをしらべよう 25時間 湿原をテーマに選ぶときと、選ばないときがある。

3,4学年において、「湿原探索と発見」ということで、総合学科を活用し、年間総時間数の3分の2をあてている。

また、5年生においては「釧路のここがすばらしい」というテーマで、釧路のよさをアピールする活動の中で、「釧路湿原」を取り上げ、現地調査し発表まで行ったグループもあった。時数は、前期、後期と分かれているが、昨年度は34時間、湿原学習にあてている（計画、探索、整理、まとめ、発表）

花咲いさんプロジェクト（4・5・6年生）釧路開発建設部事業への協力

全校対象。午後半日。釧路湿原、温根内ビジターセンターの職員に案内してもらい、釧路湿原の動植物を観察学習する。身近な動植物に関心を持つ子どもが増えている。

タンチョウ斉調査への協力（3.4年、5.6年、各1時間）タンチョウへの給餌活動（全校、冬季間）

身近な環境に対する理解が深まった。

対象学年：全学年を対象「春をさがそう」行事の中で

時間数：1日日程6時間

教育大釧路校生物学研究室OB、NPO法人「環境把握推進ネットワーク」メンバーの人材活用

内容：

釧路町の細岡展望台にての出前授業

湿原を散策しながら、動植物の生態、名前を当てるクイズをはじめ、ネイチャーゲームなどを通じて、湿原の動植物などについて知識を深めた。

成果：湿原に対する理解を深めることができた。

感想：専門家でもあり、小学生への扱いも大変すばらしく、内容がある程度プログラム化されており、楽しく学習することができた。多くの学校が活用してもらいたいと感じた。

中学校

遠足 湿原を通過の遠足。湿原マラソンへの参加 部活動

・第1学年 23時間・自分と地域環境（郷土）との関わりについて考える中で、地域環境に関心を持ち、課題解決的な学習を進めている。

陸上部 湿原マラソン大会参加

・1年生での遠足 ・フィールドワーク（木道散策、オリエンテーリング）

全学年 6時間 湿原強歩遠足（28km）

成果 28kmを完歩することにより、充実感と達成感を味わわせ、不撓不屈の精神を養うことができた。自然とふれあい、自然愛護の精神を養うことができた。

1学年 2時間（学級単位での実施）身の回りの生物の観察 地形と地図

成果 湿原周辺の動植物の生態を観察し、まとめることができた。地図記号と地形についての理解を深めることができた。

高等学校

毎年、本校では「釧路湿原強歩大会」を実施しており、今年で26回目となります。男子40km（昔は50km）、女子35km（昔は40km）を完歩するという本校の伝統行事となっています。

毎年、体育の授業の中で、湿原強歩と称して、男子28km、女子は20kmの競歩を実施している。対象学年は全学年、生徒は毎年大変だがゴール後はそれなりの成果がある。今年度は道路工事等の関係で中止した。

大学・高等専門学校等

2 - 4における植林以外では、年1回程度実施の釧路湿原視察ツアー、時には霧多布湿原も訪問する。釧路出身者でも実際に木道を歩いた経験のない学生も多く、新たな視点を提供できる。また、最近は実施していないが、ホーストレッキングやカヌー体験もグループで実施した経緯がある。

3 - 4 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。

小学校

現地学習のとき、湿原まで遠いので、時間と費用がかかる。

交通手段と費用

中学校

・湿原までの距離が長い ・生徒が多いため、輸送、受入がムリと言われる。

資料の収集

活動時間、経費、指導者の確保

それぞれの課題が違うので、フィールド学習等の日程の調整

高等学校

クルマの交通量が増加したため、交通整理や生徒の交通安全を確保するため、人員が数多く必要。釧路湿原道路を横断するので、危険が伴う。

・生徒の健康状態 ・一般道路との交差するところの安全性

3 - 5 湿原を題材とした教育活動を実施されていない理由を、差し支えない範囲でご記入ください。

小学校

- ・他の内容での教育活動がすでに計画されており、その他に時数を確保できない。
- ・くり返し学ぶ素材として身近にない。

経費がない

- ・距離的に遠い
- ・近くに良い題材がある
- ・限られた時数では身近なところでないと使えない

湿原より身近な素材が豊富なため。

例えば、本校の遠足では徒歩となっており、距離的に無理となっている。

子ども達の生活圏の環境教育に取り組んでいるため

本校は地域力をいかした農園活動や動物園学習などを中心に活動しているため。また、湿原を題材とした場合、近隣とは言え、交通費の問題、時間の確保など、いろいろ配慮すべき点もあると考える。

湿原までの移動手段に費用がかかる。

身近でない(地域的に)

本校の近くを新釧路川が流れているため総合的な学習の時間で学習している。今後、釧路湿原を取り扱うことも検討していきたい。

題材として取り入れるための資料や情報を十分に入手できていないため。

総合的な学習の時間では、環境をテーマに学習活動を行っているが、より身近な地域という視点、環境問題という視点で行っている。3年生の社会科において、釧路湿原について学習している。

構想としては湿原を活用することも考えられるが、頻繁に足を運ぶことのできない湿原よりも身近なもの、こと、場所を題材とした活動が実態に合っている。

校区から湿原が遠いから。

時間に余裕がない

他の取組(現場の実態に応じた教育課題に取り組んでいるため)

学校課題を解決ため、他の教育活動を優先的に扱っているため

湿原の範囲、定義等が明確でないので返答しづらいが、いわゆる「釧路湿原」をゲレンデとした活動は距離的な問題(交通手段等)や子ども達の生活との関わりで実施できない現状がある。現在実施している「環境に関する学習」では地域の川を題材とした学習を中心に展開しているが、釧路川へ流入する川であるので、その意味では実施していることになるのかもしれない。

沿岸地域のため、前浜を題材にした活動が中心となっています。

距離的に遠い(実体験させるためには)

特に必要性を感じていないから

学校林や学校農園を地域素材を生かした活動として捉えているので、湿原を題材とした教育活動は検討していない。本校は湿原と呼ばれる地とは若干距離があり、また、そのために子ども達や地域的にも湿原への関心がそれほど高いとは言えない現状であるなどの理由による。

現在のところ考えていない。

移動手段の確保

釧路湿原は、学校から遠く、往復に要する時間が長過ぎて、活動可能な範囲内でないことが挙げられる。さらにまた、本校は豊かな自然に囲まれており、環境教育を推進する上で大変恵まれた環境にあります。まず、子どもにとって身近である地域の素材を生かすことが大切であると考えます。

- 1) 距離的な問題があり、活動を計画する際に支障がある。(移動手段、移動時間、教材として身近でない)

2) 地域素材としての環境があるため、「湿原」を題材とする必要性が低いと考えられる。湿原の上流域に当たるが、地域の自然環境の学習を通して関連づけた意識の掘り起こしはできると考える。

子ども達が観察したり、調査したり、湿原と直接関わるには距離的、時間的な課題があり、今後検討していきたいと考えている。

本町では、環境教育に力を入れており、環境に重点をおいた教育活動(社会教育、学校教育)が充実しているため。地域に題材となる環境が整っているため

中学校

生徒のテーマ選択に湿原に関するものがなかった。

学校から湿原までの距離があるため

特に理由はないが、湿原を中心に扱う必然性がないこと。もっと身近な環境に目を向ける場所があるから。

本校の特色ある教育として地域学習を中心に進めているため。

湿原から距離的に遠く、身近とはいえない。

授業時数、指導者、予算、学校規模

学校課題を解決ため、他の教育活動を優先的に扱っているため

重要だとは考えるが、本校の実態から考えると出かけての学習は困難であるため

湿原の減少や乾燥化などは、話題とはなるが、それを題材として教育活動を展開しようという方向で論議されておらず、取り組むまでは行っていない。

授業時間数等の調整ができないため

- ・全生徒一斉の湿原を題材とした教育活動は行っていないが、生徒個々の興味、関心に応じて実施している。
- ・湿原マラソン等は実施していないが、地域の自然に触れる強歩遠足(20km)を実施している。
- 「総合的な学習」で実施したこともあるが、今年度は湿原を題材としていないので実施していない。
- ・学校周辺に教育活動の素材が十分ある。 ・弟子屈町は摩周湖等の調査対象が多く存在している。
- ・授業時数の確保が難しい。

釧路湿原は遠方であり、身近なものではないため。

高等学校

授業数確保のため、行事が減少したため。

教員の研修不足

大学・高等専門学校等

カリキュラム上、時間の余裕がない